

〔巻頭言〕

今後の養豚はどうなる？

株シムコ 園 田 昭 浩

2015年も終わりを迎えようとしています。

国内外の情勢を振り返ると、自民党体制によるデフレ脱却、安全保障法案の成立、TPPの確定、中国の経済の失速、イスラム国等によるテロの多発など大きな分岐点に差し掛かっていることは間違いありません。養豚業界を振り返ってみると、PEDの続発とTPPの確定はあったものの、高豚価に支えられ、収益が伸びた企業や農家が多く、良い年だったのではないのでしょうか。

さて、今後の養豚業界はどうなるのでしょうか。TPPによる影響はどうでしょう。生産者としては付加価値をつけることでの海外物との差別化や、日本製の輸出拡大等、ピンチでもありチャンスでもあります。未知なところもあり、不安もありますが、情勢に対応できるようスキルアップを図っていかなければなりません。

次に疾病ですが、PEDが猛威を振るって2年が経過しました。当初ほどの被害はありませんが、未だに、発生の報告がされており、地域や農

場によっては慢性化になってきているようです。

PEDのみならず如何なる疾病対策の原点は①農場防疫（病気を入れない、出さない）、②衛生対策（特に清掃消毒は必須）、③人材、④設備、⑤適切なワクチン・投薬プログラムです。豚、人、物が行きかう現代において、いつ何時、未知の病気が侵入するかわからないなか、常に監視を続け、絶対に病原体を侵入させないようにしなければなりません。

最後に、世界の育種改良のスピードは目にみはるものがあり、国内の豚と比較しても生産性が優れた成果を上げてきています。今後、このような豚の血統が浸透していくなかで、豚の能力を引き出すには飼養環境、すなわちSPF豚農場管理に準じた衛生対策が重要になるのではないかと思います。

いづれにしても生産、販売、飼養管理、疾病、育種において日本養豚界の変革の幕開けとなるでしょう。